

令和2年度 学校運営連絡協議会実施報告

1 組織

- (1) 都立野津田高等学校 学校運営連絡協議会（全日制課程）
- (2) 事務局の構成
副校長 主幹教諭（総務主任）＝事務局長，経営企画室長 計3名
- (3) 内部委員の構成
校長，副校長，経営企画室長，主幹教諭（教務主任），主幹教諭（生活指導主任），
主幹教諭（総務主任），主幹教諭（第1学年担当），主任教諭（進路指導主任）
計8名
- (4) 協議委員の構成
地域教育関係者，近隣特別支援学校長，近隣自治会長，近隣自治会理事，
近隣中学校長（2名），近隣消防署長，近隣警察署スクールサポーター，PTA会長，同窓会会
長 計10名

2 令和2年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会の開催日時，出席者，内容，その他
 - 第1回 非常事態宣言に伴う休校及び感染症対策の観点から書面による実施
協議委員委嘱，委員紹介，学校経営計画及び本校の現状と課題説明，教育活動報告，昨年度学校評価アンケート結果報告
 - 第2回 令和2年11月22日（金）内部委員8名，協議委員7名出席
学校経営計画の進捗状況，教育活動報告，学校評価アンケートの内容検討，意見交換
 - 第3回 非常事態宣言に伴う感染症対策の観点から書面による実施
教育活動報告，学校評価アンケート結果報告，意見交換，学校運営に関する提言
協議委員の評価表記入 本校が昨年度より改善されているかの設問に対する回答
そう思う8 多少そう思う1 あまりそう思わない1
- (2) 評価委員会の開催日時，出席者，内容，その他
 - 第1回 非常事態宣言に伴う休校及び感染症対策の観点から書面による実施
学校評価の基本方針の確認，昨年度学校評価アンケート結果の分析，
今年度授業評価等導入と学校評価アンケートの実施に向けた検討
 - 第2回 令和2年12月4日（金）内部委員1名，協議委員1名出席
授業評価結果分析，今年度学校評価アンケートの内容・実施時期の検討
 - 第3回 令和3年3月9日（火）内部委員1名，協議委員1名出席
学校評価アンケート集計結果の分析，評価報告書の検討

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

- (1) 学校評価の観点
 - ア 生徒は1学期2学期の授業評価と同時に学校評価を実施し，保護者，教職員に対しては，本校の教育活動全般に関する同様の項目で学校評価アンケートを実施して比較する。
 - イ 地域住民に対しては，本校生徒の状況についての問いかけを中心に行う。
- (2) アンケートの調査時期・対象・規模
実施時期 11月末～12月下旬
対象・規模 全生徒495人，全保護者495人，本校教職員46人，地域代表2人

(3) 主な評価項目

教育目標、学校の特色、学習指導、進級・卒業規定、成績評価の基準、生活指導、特別活動、進路指導、学校行事、家庭と学校との連絡・連携状況、ライフワークバランス等

(4) 評価結果の概要（学校及び校長への意見・提言内容）

○全体を通して

本アンケートの保護者回収率は、昨年度とほぼ同じ約 47%（前々年比+7ポイント）と年々向上しており、保護者の方の学校への興味・関心・期待が高まってきていることが感じられる。

全 17 項目中 13 項目（項目 17 については今年度新たに設定したため、実質的には 16 項目中）において、生徒・保護者・教職員とも肯定的な回答が増加した。昨年度と比較しても、肯定的意見が更に増加傾向にある。新カリキュラムへの移行に向けてグランドデザインの見直しを行うことで、学校生活全体の質が向上しているせいかと考えられる。保護者の自由意見欄にも肯定的なものも多く、学校生活への満足度が上がってきていることがうかがえる。また、今年度はコロナの影響で、学校行事が大幅に制限され、PTA活動も思うように活動できなかった。今後このような状況の中での対応方法が課題となってくる。

○肯定的評価が増加した項目について

- ① 「野津田高校は教育目標をわかりやすく伝えている」
- ② 「生徒は、授業や学習に積極的に取り組んでいる」
- ③ 「授業での教え方や説明はわかりやすいように工夫されている」
- ④ 生徒は、クラスや部活動などで、良い交友関係をもっている。
- ⑤ 「授業の成績が、どのような基準で評価されるか知っている」
- ⑥ 「野津田高校の頭髪や校則についての生活指導は理解できる」
- ⑦ 「高校生になって、心身ともに、ずいぶん成長したと思う。」
- ⑨ 「将来の事や進路について、わかりやすく情報提供されている」
- ⑩ 「先生は、自分たちの意見や悩みに適切に応じてくれている」
- ⑪ 「学校から配布されたプリントは、保護者見みせている（情報が伝えられている）」
- ⑫ 「私は、野津田高校に入学して（させて）よかった」
- ⑬ 「野津田高校は保護者と連携した指導が行われている」
- ⑮ 「学校は、体罰や暴言をなくすために、積極的に取り組んでいる」
- ⑯ 「本校は、教職員のライフワークバランスに配慮した取り組みが行われている」

項目 1 生徒の肯定的回答が 6 割前後と若干低かったが、福祉科・体育科では「よくあてはまる」が昨年度より 11%上昇している。

項目 3 体育科生徒の肯定評価が昨年度より 13%増えている。

項目 6 生徒指導に関する項目では、肯定的評価が各科とも全科において 80%を超えており、評価委員からは教員の日々の努力の成果が出ているとの指摘があった。

項目 11 評価委員から重要な配布物や連絡はできる範囲内で曜日を決めると、保護者の注意も向き、それと関連して、項目 13 も含めて普段からの保護者とのやり取りが重要であるとの指摘があった。

項目 12 昨年度否定的回答が若干増加した体育科の生徒では肯定的回答が 19 ポイント増加した。不本意入学を減らすための広報活動に力を入れ、実習等の内容見直しなど科の特性を正確に理解してもらう働きかけたことの成果と考えられる。評価委員からは、コロナ禍においても工

夫しながら課題の配布に取り組み、丁寧に面倒見を続けていった結果であるという指摘があった。

項目 15 前年度、否定的回答増加傾向にあったが、生徒・保護者・教職員とも肯定的回答が増加した。引き続き身を引き締めて日々の指導に当たることが重要である。

項目 (1, 2, 3, 4)

福祉科生徒の肯定的回答が他科に比して若干減少していることは、臨時休校等の影響で介護福祉士国家試験へ向けたカリキュラム過密化の影響が考えられる。学習意欲が薄れ、授業や課題に対して前向きに取り組むことができない生徒や、生活面で緊張感が薄れている生徒への十分な配慮が必要である。

項目 (4, 7, 10)

普通科・福祉科・体育科の三科とも肯定的評価が前年比 10 ポイント前後高くなっており、(とくに項目 7, 10 は昨年度も増加傾向) 生徒・保護者とも本校での心身の成長を実感していることがわかる。

○生徒・保護者とも肯定的回答の増加は見られなかった項目について

項目 8 「野津田高校では、部活動や学校行事が盛んに行われている」

項目 14 「PTA活動は(に)充実(協力)している」

春の臨時休校等による例年行われていた行事の中止や、課外活動が制限など学校生活の制限の影響かと思われる。可能な範囲の中で、代替えとなる活動を模索してはきたが、生徒の活動欲求を満たしうるものではなかったと受け止めざるを得ない。現在置かれている状況に応じた新しい発想で学校生活を充実させていく必要がある。また、慣れない環境に置かれている生徒たちの心身への影響に対する配慮も課題である。

○新規の項目について

項目 17 「私は、困ったときや悩んだ時に相談できる人がいる」

項目 17 については、学校評価委員での討論の結果、今年度新たに加えたものである。概ね肯定的な回答ではあるが、生徒・保護者・教員とも否定的回答も見られた。問題点の早期発見と対策が必要である。

また、三科とも全項目において一定数の否定的回答があることは事実で、こうした生徒に対する学習面のサポートや心のケアも求められている。教科・学年任せにせず、学校全体で情報を共有し、組織的に対応していくことで、引き続き、生徒が安心して学校生活を送ることができる環境づくりを一層推進し、個々を大切に、自己肯定感を持てる指導を継続していくことが大切である。

【自由意見から】

本校生徒の身なり(服装・頭髪等)や下校の様子

- ・服装・頭髪等を含む身なりについては、近隣の方からの好意的なご意見が増えてきている。日々の指導の成果と、アンケート回答にみられる学校生活の充実感が反映されていると感じる。
- ・登下校中のマスク着用について、大声での会話についてのご指摘が複数ある。ホームルームを中心にすべての教育機会の中で、新型コロナウイルス感染症拡大防止の意識向上に努めたい。

(5) 評価結果の分析・考察（学校及び校長への意見・提言）

- ① 「授業での教え方や説明はわかりやすいように工夫されている」の項目について、体育科の生徒を中心に評価が上昇していることは、教員の励みになり、コロナ禍の中で、各教員が授業の質の向上に取り組み続けた結果の表れであると評価委員会からの御指摘があった。今後も学校全体としてさらなる授業の向上に取り組む。
- ② 「私は、野津田高校に入学して（させて）よかった」という項目では、生徒保護者共に、肯定的評価が増えており、1学期当初登校できないときに、課題や連絡等細やかに取り組んできた成果の表れであると評価委員会からの御指摘があり、今後も生徒・保護者に寄り添った指導、関わりを継続していく。
- ③ 暴力・いじめや体罰・暴言の防止、心の悩みへの対応などをしっかりと行い、生徒・保護者にとってより一層安心で安全な学校を目指して、分掌・学年等で努力していく。
- ④ 自立した生活態度、学習意欲の更なる向上を図る。また、各教科の課題の設定も、成長段階に応じた適切な量となるように調整する。
- ⑤ 地域や保護者に対する情報発信をより積極的に行い、地域と共同した防災訓練や学校公開、文化祭、などで実際の活動を見ていただく。また、生徒会による交通安全活動や福祉科のボランティア活動などにより積極的に地域の方々とコミュニケーションを図り、学校に対する理解・関心を高めてもらえるように取り組んでいく。
- ⑥ 働き方改革については、取組は評価されているが、学校現場では定時外に行われている不可欠な業務があり、これがなければ学校運営が成り立たないのも現実である。このような状況ではあるが、一人一人が働き方改革を意識して、今後も少しでも定時外勤務時間の短縮に取り組んでいく。
- ⑦ 通学時においては、特にバス乗車時のマスク着用などのエチケットや自転車の乗り方について課題があり、地域の方々から御意見を頂いている。生活指導部を中心に改善のための方策を今後も検討し、実践していく。
- ⑧ 特別活動をさらに工夫していくことは今後の課題である。
- ⑨ コロナ禍において、生徒の精神面をフォローしていくために、相談体制をより充実させていく必要がある。